

## はじめに

この度は京都大学藤子不二雄同好会（京大 F 同）の NF 展示にお越しくださり、そしてこの文集をお手にとってくださって、誠にありがとうございます。

京大 F 同は 2009 年に発足したサークルです。F 同が誕生したのは、中野初代会長の「藤子作品について語り合う仲間がほしい。でも大学生では、児童漫画という印象の強い藤子作品について話すのは少し困難な節がある。ならばサークルを作ろう」という思いからです。発足当時は藤子・F・不二雄大全集が創刊するという藤子ファンにとって感慨無量のニュースが舞い込んだ頃でもあり、「藤子・F・不二雄同好会」として F 作品を対象として活動を行ってきました。2011 年 10 月に私が会長を引き継ぐこととなった際に、二人で一人の藤子不二雄ということを尊重して現在のサークル名に改称し、F・A 両先生の作品に親しんでいます。

私が入会した当初は 5 人前後の小さな集まりだった F 同も、現在では 10 名以上の会員が在籍し、活動内容も少しずつではありますが充実しつつあるように思います。藤子作品の上映会を行うというのがサークルの主たる活動ですが、今年はそれに加え、藤子・F・不二雄ミュージアムやトキワ荘などを合宿という形で訪問しました。NF への出展も今年が初めてになります。その他、2005 年より活動されておられる早稲田大学ドラえもん研究会さまと昨年、今年と 2 年連続で交流させていただく機会を持ちました。同じ年代の藤子ファンとして、藤子サークルの先輩として、大いに刺激を受け、また同時に尊敬する存在で、今後も交流を続けられたらよいと考えています。

アニメドラえもんのリニューアル、藤子・F・不二雄大全集の創刊、藤子・F・不二雄ミュージアムの開館、藤子両先生の生誕地である高岡・氷見の街に駆け込む藤子キャラたちなどなど、昭和後期ほどではありませんが、近年藤子作品関連の明るい話題が増えていることは間違いありません。このような流れの中、京大 F 同が生まれ、そこに私が所属していることは、運命のように思えて仕方ありません。今後 F 同がどのようなになるか、個人的にも非常に楽しみな思いでいっぱいです。今回の NF 展示がご来場のみなさんにとって藤子作品に再び熱中する、あるいはファンになるきっかけとなれば、嬉しく思います。

会長 長谷 悠太